

泉野小学校大好き ～学校となかよし～

生活科 第1学年
金沢市立泉野小学校・教諭

1 事例の概要

本校の学校内には多くの木々が植えられ、校区にも公園が多いため、児童は自然とのかかわりに関心をもって学習しやすい。また異学年交流が盛んなことから、児童は活動の見通しをもち活動する姿が見られる。しかし経験のないことには消極的で、自ら問題を見つけ活動しようとする姿は少ないと言える。

そこで、2年間を見通した指導計画を作成するとともに、気づきを大切にせる指導方法の工夫、指導に生きる評価と支援のあり方について探った。

2 実践内容

(1) 単元の目標

学校やその周りの自然、人々、施設等に関心を持って学校探検を行い、自分のお気に入りの場所を見つけ伝えるとともに、学校にはいろいろな施設や自然があり学校生活を支えてくれている人々がいることがわかる。

(2) 指導上の工夫

① 2年間を見通した指導計画の作成

地域や児童の実態より、以下の3つの視点を持ち、指導計画を作成した。

- ・身近な自然や地域環境を生かす。
- ・児童を取り巻く身近な人々とのかかわりを重視する。
- ・単元のつながりや広がりを意識する。

② 気づきを大切にせる指導方法の工夫

児童が思いや願いをもち、くりかえしかかわり合いたくなるような単元計画を立案した。(右図)

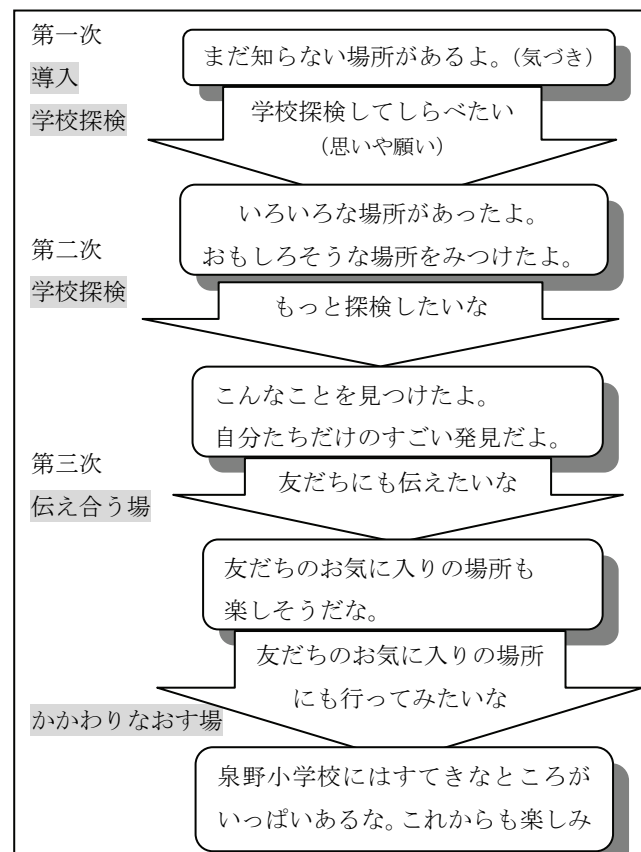
- ・児童の思いや願いを引き出す。
- ・一人一人の思いや願いをかなえる活動を工夫する。
- ・伝え合う場を工夫する。
- ・かかわりなおす場を設定する。

③ 指導に生きる評価と支援

- ・教師の具体的な支援イメージをいくつかもつ。
- ・ふりかえりで書いたものを分析し、次の指導に生かす。

B-1 平成18年度指導計画一覧表

B-2 単元計画



3 指導の実際

学習活動	◇評価の視点 ()評価方法【】評価の観点
<p>1. めあてをつかむ < お気に入りの場所クイズをしよう ></p> <p>2. お気に入りの場所についてクイズで伝え合う</p> <p>ヒント1 さいしょはどきどきしました。</p> <p>ヒント2 カーテンがあります。</p> <p>ヒント3 ピンセットがあります。</p> <p>正解は保健室です。</p> <p>・ゲストティーチャーからお話を聞く</p> <p>3. また行ってみたい場所を話し合い、ふりかえりカードに書く</p> <p>クイズ大会楽しかったね。みんなのお気に入りの場所を聞いたら、行ってみたいくなったよ。次のクイズ大会も楽しみだな</p>	<p>◇みんなに伝わる声の大きさや物の見せ方でクイズを出している。 (発表)【思考・表現】</p> <p>◇お気に入りの場所を進んで話したり、聞いたりしている。 (発表・行動)【関・意・態】</p> <p>◇また行ってみたい場所を書いている。 (ふりかえり)【関・意・態】</p>

C-1 指導案

C-2 支援イメージ

C-3 指導の工夫とその実際

C-4 授業記録

4 成果と課題

(1) 成果

① 2年間を見通した指導計画の作成

2学年の交流を明らかにしたことにより、相互に働きかけ合う活動が年間を通して計画的に位置づけられた。1年生は2年生の具体的な姿を多く見ることで、来年度の活動に期待感をふくらませている。また、単元のつながりを色別に表記して指導計画を作成したことにより、児童が既習経験を思い起こしながら見通しをもって活動できるようになった。

② 気づきを大切にす指導方法の工夫

児童の思いや願い、気づきをイメージしながら指導計画を立案したことにより、児童は「もっと学校のことが知りたい。」という思いをふくらませながら、くりかえし対象とかかわり合うことができた。単元を通して「学校ってこんなにおもしろいと思っていた。」と、前よりもっと学校のことがよくわかった自分に気づく児童の姿が見られた。

③ 指導に生きる評価と支援

児童のふりかえりを分析することは、全員の学習状況を把握でき、誰にどんな支援が必要か考え次時への支援に生かすことができた。具体的に支援イメージをもつことにより、タイミングのよい効果的な支援が行いやすくなった。

(2) 課題

思っていることを話したり書いたりクイズにして表現する場をもってきたが、その力については個人差が大きい。どの児童も自分の思いを素直に表現できるように、対話を通して思いを聞きどう表現したらよいか支援していくこと、その時間を保障してあげることなど個に応じたきめ細やかな支援が必要である。また、そのように表現したことが教師や友だちから認められることによって、気づきを価値づけていきたい。

評価を指導に生かすために、様々な児童の様子を予想する教師の力や支援を幾通りもイメージできる力、そして場面や状況に応じてタイミング良く支援する力を高めていくことが大切である。